

東海市立渡内小学校 住 所 東海市荒尾町義呂 1－1 電話番号 052－604－0666 児童 389名 校長名 飯 田 佳 洋 クラス 16学級（内 特支2）			○教育目標 ○めざす子ども像 ○経営方針	・ 広い知識 豊かな心 強い体 ・ 広い知識と正しい判断力をもつ子 ・ 礼儀正しくおもいやりの心をもつ子 ・ 心身ともに健康でたくましい子 ・ 児童にとって魅力がある学校づくり〔学思行相須ツ〕 ・ 児童が、明るく良好な人間関係を築くことができる学校づくり〔先施の心〕 ・ 児童が、心身ともに健やかに成長できる学校づくり〔勇なるかな勇なるかな、勇にあらずして何をもって行わんや〕	資料		
期 目標	今年度の目標	評価方法 （アンケート項目）	結果の分析	課題と対応策	学校関係者評価 【実施日】令和7年2月7日	来年度の改善策	
基礎・基本の徹底を図り、自ら課題を見つけ、自ら解決しようとする力の育成	子ども理解を深め、一人一人の個性・能力に応じた支援を行う。	学校評価アンケート 児童：先生は熱心に指導くれる。 児童：先生は、がんばったことをほめてくれ、いけないことはしかってくれる。 保護：先生は、よいところは褒め、悪いことはきちんと指導している。 保護者：職員は子どもを大切にしてくれている。 教師：児童のよいところを認め、褒めている。 教師：発達障害について理解を深め、全ての児童に分かりやすい授業を進める努力をしている。	（評価A） 児童・保護者ともにわずかずつ肯定的な回答は減少しているが、教師の支援に対する満足度は維持されている。発達障害を含めた教師の児童理解が児童への指導につながっていると考えられる。	児童は、落ち着いた学校生活を送っており、家庭の理解と協力によるところが大きい。今後も、教師が児童としっかりと向き合い、保護者と話し合いながら、児童一人一人の理解に努め、成長を促す指導・支援を進めていく。	授業公開等の様子からも、児童は落ち着いた学校生活を送っている。今後も児童一人一人と向き合い、保護者との連携して指導・支援を進めて行くことが大切だと考える。	・ 児童一人一人の理解に努め、家庭との対話を大切にした支援を続ける。 ・ 専門家による個に応じた対応を検討する機会をもつことを継続し、支援に努めていく。	
	わかる授業、楽しい授業に取り組む。	学校評価アンケート 児童：授業は楽しい。 児童：授業の内容はよくわかる。 教師：楽しい授業を実践している。 教師：わかる授業を実践している。 教師：ICTを有効に活用した授業を実践している。 保護者：先生はわかりやすい授業をしている。 児童：タブレットを使った授業は楽しい。 児童：タブレットやデジタル教科書などを使った授業は、わかりやすい。 保護者：渡内小は ICT を活用した授業を行っている。	（評価B） ICTを使った授業が「楽しい」「わかる」と感じている児童は約90％達しているが、教師の「ICTを有効に活用した授業」では15％後退している。ICT活用が日常となり、教師が新たな有効的活用を模索していると考えられる。	授業が「楽しく」、「わかる」ことが理想である。これから、さらに「楽しく」「わかる」授業に向けて、多くの手立てをもって授業の展開をしていく必要がある。ICTについては、今後も「有効な活用」に向けて研修と実践を積み重ねていく。	児童のICT使用技術が上がっている。ゲームを検索して遊べる環境にもあるので、活用の仕方について児童の実態を把握しながら、適正に利用していけるようにしていく必要がある。	・ 児童の実態を把握し、リテラシーを含め、よりよい活用の仕方を指導していく。 ・ ICTの効果的な活用を含め、研修と実践を積み重ねていく。	
他を思いやる心・自主的にはたらきかける力の育成	あいさつ・返事を習慣化させる。	学校評価アンケート 児童：家族や旗当番、地域の人にあいさつをしている。 保護者：児童は家庭内や地域であいさつをしている。 地域：児童はあいさつをしている。 教師：あいさつ・返事の指導をしている。 教師：児童はあいさつをしている。 教師：率先してあいさつをしている。	（評価B） 児童、保護者共に家庭であいさつができている割合が高い。家庭外では、児童と保護者の結果に大きな隔りがある。家庭でできている様子と比べ、家庭外でのあいさつは十分でないと捉えている保護者が多いと考えられる。	校内では、自分からあいさつしたり、教師のあいさつに応じたりできる児童の姿があるが、決まった児童の印象である。校外でのあいさつを含め、児童自身があいさつの意味を理解し、地域でも行動できるよう、学校と家庭の両方からの子ども達に対する働きかけをしていく。	登校時や月曜日は元気がないが、会議前に校内を回ると多くの子があいさつをしてくれた。校外でも学校の関係者だと分かると声をかけてくれる子もいる。大人から率先して子ども達にあいさつをしていく必要がある。	・ 児童にあいさつの意味を説き、教師自身が率先垂範したり、委員会で啓発活動をしったりして、あいさつの輪を広げていく。 ・ PTAやコミュニティを通して、家庭や地域での働きかけを依頼していく。	
	学校のルールを守り、社会のルールも守ろうとする意識を育てる。	学校評価アンケート 児童：学校のきまりを守って学校生活をしている。 児童：交通安全に気をつけ、交通ルールを守っている。 児童：公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。 保護者・地域・教師 ・ 子どもたちは、交通安全に留意して生活している。 ・ 公園等では、他の利用者に迷惑をかけていない。	（評価B） ほとんどの児童がきまりやルールを守れていると考えているが、大人、特に保護者の結果と大きく隔りがあり、3者とも、昨年度よりも値が下がっている。	多くの児童はルールを守ろうと生活している。しかし、校外では、気持ちが緩んでしまったり、友達との関わりの中、羽目をはずしてしまったりする児童がいると考えられる。学校と家庭の継続した指導に加え、地域見守りや声がけ、関係諸機関の支援も依頼していく。	公園の駐輪場から自転車が道にはみ出して止めてあったり、買い食いしたゴミが落ちていたりしていることが多い。学校でも全体に注意喚起をし、公共の場におけるマナーについて意識を高める必要がある。	・ 教育活動を通して、粘り強く指導していく。 ・ 家庭、地域に実態を伝えながらタイムリーな啓発活動をおこなっていく。	
健康な心身の育成	健やかな心を育てる。	学校評価アンケート 児童：渡内小が好きである。 児童：学校生活は楽しい。 児童：相談できる先生がいる。（相談できる） 児童：先生以外に相談できる人がある。（家族・友人） 保護者：職員は、子どもを大切にしてくれている。 保護者：職員は、相談しやすい。	（評価B） 「学校が好き・楽しい」と答えた児童は高い値を示している。92.7％の児童が誰かに相談できると答えている。しかし、どの項目にも「まったくあてはまらない」とした児童や保護者が一定数おり、そこに焦点を当てる必要がある。	学校が楽しくない、相談する相手がいないと答えた児童が一定数いることから、教師が、日々児童一人一人の様子を見取り、声をかけ、家庭との密な連絡を継続していき、必要に応じて関係諸機関との窓口となれるよう努める。	学校と家庭が連携して、一人一人の児童の様子から、声をかけていくことが大切である。	・ 一人一人の様子を見取り、声をかけ、家庭との密な連絡を継続していく。 ・ 「SOSミニレター」等外部の窓口も含め、さまざまな相談方法を周知していく。	
	規則正しい生活、食育指導に取り組む。	学校評価アンケート 児童：家で学習をしている。 児童：規則正しい生活をしている。 児童：好き嫌がなく、自分で量を調整して、給食を食べている。 保護者：学習習慣がつくよう配慮している。 教師：家庭学習を課し、家庭での学習習慣を身につけさせている。 教師：給食を好き嫌がなく、自分で量を調整して、残さず食べるよう指導している。	（評価B） 児童自身の評価は 80.5％であり、保護者のも同程度であることから、学校と家庭との連携が必要である。給食の設問では、「自分で量を調整して」という文言を加えたが、児童の意識が低下している。	家庭学習や生活習慣については、家庭との連携が不可欠であるため、懇談会や日常の連絡等での個別の働きかけや、啓発活動を続けていく。給食については、最後に食缶に食べ残しを戻しに来る児童が低学年で多い。また、市内でも特に残食が多い。食育を強化し、さまざまな食材や料理に関心をもたせていく。	偏食の児童が増えているように感じる。楽しく食べる環境やしっかりと食べる時間の確保も大切にして、食育や給食指導を続けていく必要がある。	・ 懇談会や日常の連絡等で、個別の働きかけや啓発活動を続けていく。 ・ 委員会活動等も利用し、食の大切さや楽しさを考えていける指導をしている。	
保護者や地域に開かれ、信頼される学校づくり	学校教育活動の公開に努め、各種たより等の充実を図る。	学校評価アンケート 教師：学校の様子を知らせている。 保護者：知りたい情報が盛り込まれている。 地域：学校の様子がわかる。	（評価B） 保護者、地域住民ともに肯定的な回答が増加している。しかし、20％の保護者が、否定的または「わからない」と回答しており、保護者にとって知りたい内容が十分に伝わっていないと考えられる。	家庭や地域のニーズを把握しながら、e-メッセージや各種たよりによる情報提供に努めていく。	e-メッセージで宿泊行事の様子が伝えられたのは、大変よかった。泊をとまうものは、保護者に児童の様子がわかるよう、今後も続けていくのがよい。ホームページに掲載される学校だより等は、地域でも活用することがあるため、配付と同時に掲載するのがよい。	・ 児童の実際の様子を見ていただける機会を設けていく。 ・ 必要な情報を、必要なときに伝えていけるよう、努めていく。	
	地域人材の活用に努めるとともに、地域行事への参加を呼びかける。	学校評価アンケート 教師：地域の教育力を生かしている。 保護者：地域の人材を活用している。 地域：協力依頼があれば、協力したい。 地域：学校は、地域の活動や行事に協力している。 地域：地域の行事等で子どもとふれ合っている。	（評価B） 教師、地域共に肯定的回答が増加している。外部講師を招いた授業や、地域との行事の連携の影響が大きい。学校に協力したいと考えている保護者、地域は市内の平均を大きく上回っている。	地域の方、企業、団体、コミュニティから多くの支援を受けて、教育活動が実施できている。地域の人材の活用は、今後も児童の成長に必須であるため、今年度の内容を継続させ、更なる人材の発掘に努めていく。	日本伝統文化体験やスポーツ関連の外部講師等を招いての授業は今後も続けていくとよい。地域の行事は地域の人と子どもたちのふれあいの場として大切にしたい。	・ 外部講師の活用を今後も継続し、効果的に活用していく。 ・ 学校支援協議会を通じて、必要な支援について、地域や保護者に広く発信していく。	